

国産ジビエ認証施設（第23号）ジビエファームの概要

【取組の概要】

- 「地域と畑は自分たちで守る」を合言葉に一気に通貫の鳥獣被害対策を行う『くまもと☆農家ハンター(※1)』を設立。民設民営のジビエファームにて安心安全な九州ジビエの生産を行いつつ、食品ロスゼロを目指して取り組んでいる。

【食肉処理施設（ジビエファーム）の概要】

- 所在地：熊本県宇城市^{うきし}
- 事業者名：株式会社 イノP^{ピー}(※2)
- 代表者名：宮川 将人（みやがわ まさひと）
- 整備時期：令和元年度（農林水産省鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し施設を整備）
- 取扱獣種：イノシシ
- 年間受入頭数：865頭（令和2年度）
- 従事者数：5名
- 主な販路：農家ハンターSHOP（ネットショップ）、飲食店への卸販売等



＜処理施設の外観＞

※1農家ハンターとは、2016年に若手農家有志が立ち上げた住民主体の鳥獣被害対策活動であり、メンバーは130人の農家からなる。
※2株式会社イノPとは、農家ハンター活動を全国に広げつつ持続可能なものにするために農家ハンターのメンバー5人が起業したジビエファームの運営会社。

【特徴的な取組】

- 地元の農家ハンター等と連携して活動。『箱わな』での捕獲に限定し、わなに取り付けたICT機器から捕獲通知を受信すると、早急に捕獲現場に出向き、迅速に止め刺し・放血後、概ね30分以内に搬入し加工。
- 大型冷蔵設備や急速冷凍機、電解水生成装置によって高度な品質・衛生管理を実施。
- 捕獲したイノシシはサステナブルモデルと題し、ペットフードや石鹸等にも加工し全て利活用するとともに、堆肥化し畑へ還元する取組を実施。



＜循環型サステナブルモデル＞



＜施設内での精肉加工の様子＞



＜5時間で堆肥化する機械＞



＜九州ジビエと冠したイノシシ肉＞